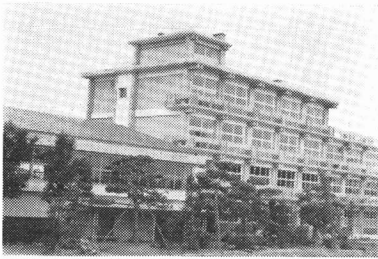


教授組織に関する研究

実験学校の研究の歩み 福島市立吉井田小学校の部

福島市立吉井田小学校長 黒 須 惣 助
福島県教育センター研究・相談部長 内 藤 善 次



昭和48年3月末日竣工した学校全景

福島市の進出地域にあり、福島駅より15分、土湯街道沿いの学校で、児童数 509名、特殊学級を含めて15学級の、県下では普通一般規模として比率の高い学校である。児童の生活環境を職業構成でみると、会社員29.0%、公務員20.8%、農業17.6%、建設業 8.2%、その他で24.4%で多様性のある地域である。

学校経営面での教員構成は、校長を含めて18名であり、男・女教師の比率は4：5である。

「教授組織に関する研究」の実験学校として、研究をはじめてから4年を経過している。

次にその概要を述べることにする。

1. 学校経営

学校組織を教授・学習組織、事務組織、運営組織とし、教授・学習組織を中核とし、相互関連的に構成し、協力体制による教育成果を期待している。

(1) 組織単位

組織の構成単位を学年団におき、教師の専門性や特性を1学級に固定させることなく、かつ、多面的な生徒指導をたてまに、低・中・高の学年団として、協力体制をとり、いっさいの教育活動は、各学年団の責任により遂行する。

(2) 弾力的な集団の再編成

既成集団（学級）を教科の性格・内容・児童の発達段階・経験に応じて、大・中・小集団に再編成し、本質的な授業を展開する。

(3) 協力的な役割分担

学年団の協力体制により、教育課程、事務内容、運営

事項を分担し、各メンバーは、主体的に役割をもって遂行する。教育課程の遂行についての教授過程においては、段階的な確かめや、教育機器の導入を可能にするため、複数の教師による授業を採用し、授業の効率化をはかる。

2. 研究のねらい

研究の視点を単元指導計画の共同作成と、教材、発達段階・経験に応じた単位集団の再編成、および、教師の特性を生かしたチーム・ワークとし、そのねらいを次のようにする。

「協力教授組織による教授過程と、その役割分担活動のあり方」

(1) 具体的な研究のねらい

ア 体育の一部合併授業の単元指導計画の共同作成と、協力・分担授業の進め方

イ 理科・算数の一部複数授業の単元指導計画の共同作成と、協力・分担授業の進め方

(2) 実施教科と学年団

ア 体育は全学年団で行なう。

算数は低学年団、理科は中・高学年団で行なう。

3. 経営機構

